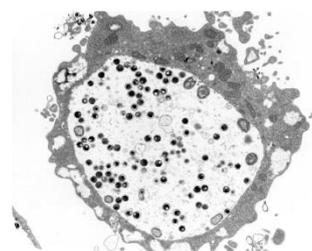


クラミジア感染症



Chlamydia trachomatis の電子顕微鏡像
(国立感染症研究所感染症情報センターHP より抜粋)

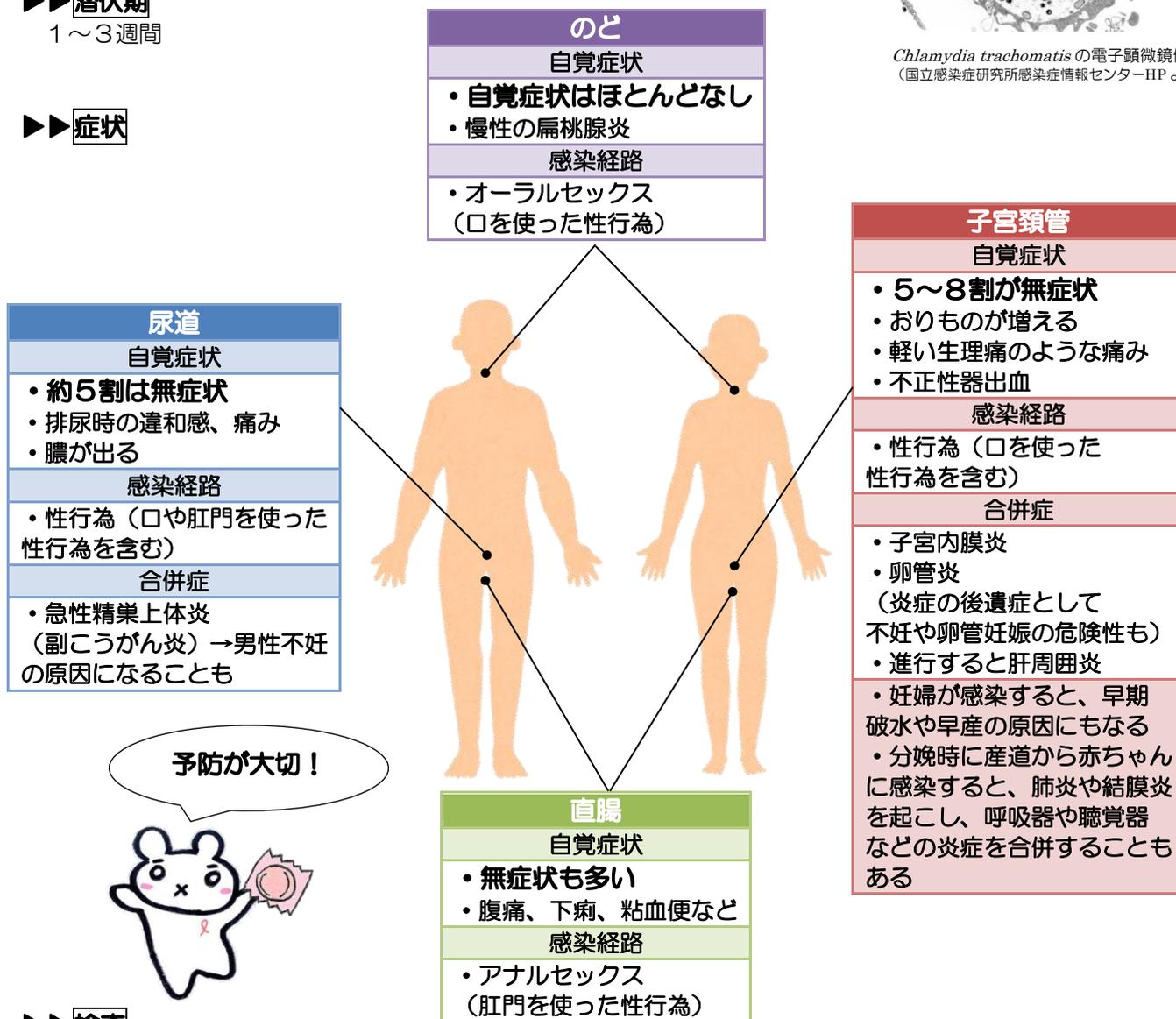
▶▶ 感染原因

クラミジア・トラコマチス (*Chlamydia trachomatis*) という微生物が、性的な接触で、性器、尿道、口、直腸などの粘膜に感染します。

▶▶ 潜伏期

1～3週間

▶▶ 症状



予防が大切!



▶▶ 検査

- ・採血をして、クラミジア抗体を調べます。
- ・尿、分泌物、うがい液などから、クラミジアの病原体を検出する検査もあります。

▶▶ 治療

自然には治りません。治療には抗菌薬、とくにテトラサイクリン系薬、マクロライド系薬、およびニューキノロン系薬が使用されます。パートナー間でお互いに感染させる、いわゆるピンポン感染があるため、パートナーと一緒に治療をすることが重要です。

▶▶ 治ったあとは…

免疫はできず、**何度でも感染します。**クラミジアに感染していることで、**HIVにも感染しやすくなります。**

▶▶ 予防

コンドームを使って、自分の粘膜に、相手の粘膜、精液、膣分泌液などが接触しないようにします。クラミジアは口腔内 (のど) の粘膜にも住み着きますので、**オーラルセックスでもコンドーム**を使用しましょう。

参考文献 1) 京府医大誌 <総説>性器クラミジア感染症 岩波一博 2) 榎グラフィックインターナショナル; (財)性の健康医学財団監修 「これだけは知っておきたいクラミジア」 3) 国立感染症研究所 感染症情報センター 「性器クラミジア感染症とは」

梅毒

▶▶ 感染原因

梅毒トレポネ-マ (*Treponema pallidum* subsp. *pallidum*) という細菌が、性的な接触により感染します。ごくまれに、皮膚や粘膜の傷から感染することがあります。



梅毒トレポネ-マの電子顕微鏡像
(国立感染症研究所感染症情報センターHP より抜粋)

▶▶ 潜伏期

3～6週間

▶▶ 症状

経時的に病期が分かれます。また、梅毒に感染していても病状がないこともあります。**妊婦**の場合は、どの時期でも**胎児に感染させる危険**があり、**流産、死産、先天梅毒**の原因となります。

—感染から約3週間後から—

早期 1期

▷菌が入った場所(性器、肛門、口など)に、0.3cm～3cmの痛みやかゆみのない**硬いしこり(初期硬結)**ができます。

- ・次第に中央がえぐれて潰瘍(硬性下疳)になります。
- ・通常1個ですが複数できることもあります。
- ・足の付け根や首のリンパが腫れることがあります。
- ・放置しても2～3週間で消えます。

↓梅毒疹(バラ疹)
(ACC「HIV感染症とその合併症
診断と治療ハンドブック」より抜粋)



—早期I期の症状が消失して4～10週間後から—

早期 2期

▷手や腕、足の裏、体に**赤い発疹(バラ疹)**ができます。

- ・発疹は数週～半年であとを残さずに消えます。
- ・風邪のような症状や、性器周辺にいぼ状のものができたり、口の中の粘膜に斑状のものができたり、いろんな症状があらわれます。

予防が
大切!

潜伏 梅毒

—早期II期の症状が消失するころから—

▷一見、体調の良い時期が数年続きますが、**全身で炎症が進行**します。無治療の場合、約1/3が晩期へ進みます。



晩期

—感染から数年～数十年—

▷皮膚や内臓に、**ゴム腫**と呼ばれる硬いしこりやこぶができます。
▷**心臓、脳**などに**障害**が起こり、日常生活が営めなくなります。

▶▶ 検査

採血をして、2種類の抗体を調べます。感染してから約4週間後に検査でわかるようになります。

▶▶ 治療

自然には治りませんが、早く発見し、治療すれば治ります。治療には抗生物質が使用されます。日本では、経口合成ペニシリン剤(アモキシシリンなど)を長期間(第1期で2～4週間、第2期で4～8週間)投与することが推奨されています。セックスパートナーと一緒に、完全に治療をすることが重要です。

▶▶ 治ったあとは…

治療後に、**再感染**することがあります。梅毒に感染していることで、**HIVにも感染しやすくなる**ります。

▶▶ 予防

感染している人との**性的接触を避ける**ことが基本です。特に**第I期と第II期は感染力が強い**ので注意が必要です。コンドームの使用は、完全ではありませんが**予防効果**があるとされています。